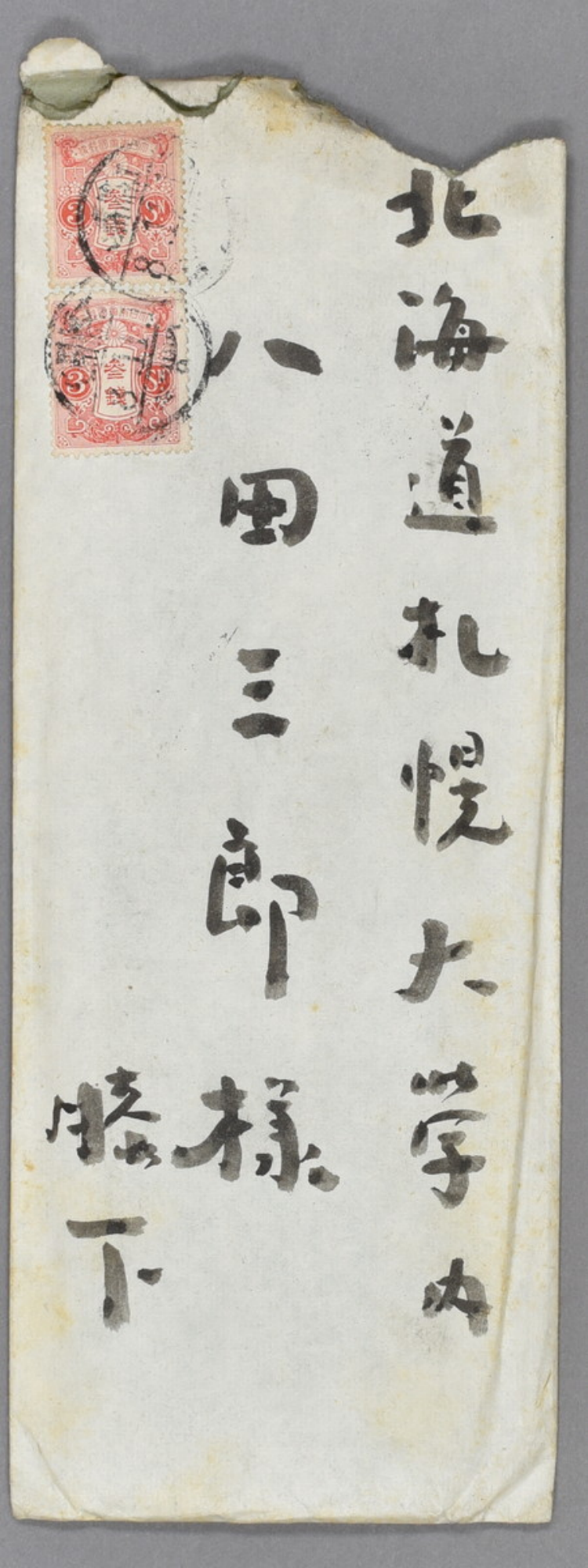
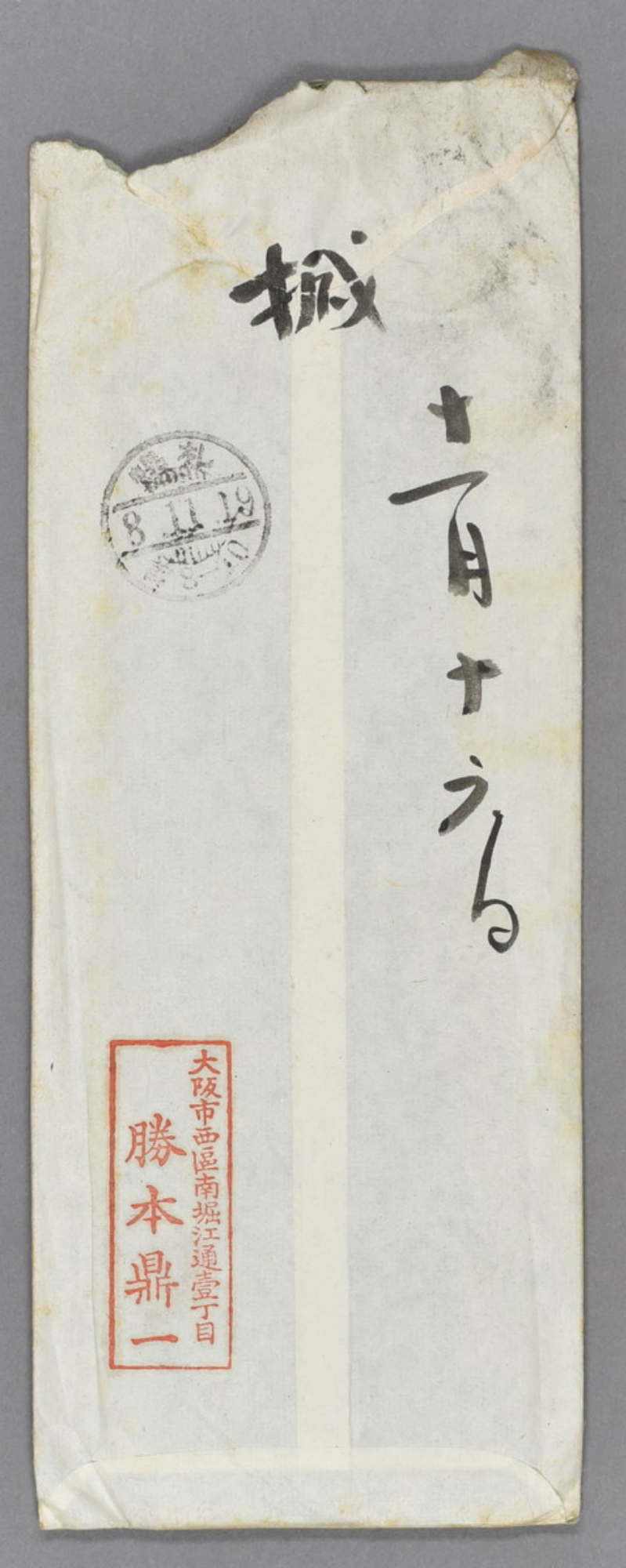


北海道札幌大学内

八田三郎様

膝下



城
十月十九日
大阪市西區南堀江通壹丁目
勝本鼎一

右仮十三日附手紙
陸奥新報社の作
あり、なお静謐なる
べきや、世が乱れ候
罪名定まること、の
不思議なり、おのずから
集まる思ひ有と其の
内あり、引退の筆を
なすあり、事実
せられ心嬉しく成れ

たまのすがた　東京
せうせつ心はなく成れ
ども　こゝ陸奥　東之生
天こゝ成而　なんぞ
此人の之生　なるお陰と
陰家せうせつ　此方
むりと　まぢ　ゝ
為体　こゝかんがへも
過る　之生　本分の
ケ沢　こゝ成れば　近頃
つゝ而　一ケ　こゝ

迎白長来候の[illegible]
少段に候へば近頃朝日
の女要氏（岩崎□□）より
好意的の文字（候□候
感謝候に御座候）来り　又
新聞紙上にて今人其存在を知
らしむる由其筋の報道
ありたる可能に其様存る
も大朝近々好き時に
容易に探りあたるべからず
と存候　中近御座候
果然新聞紙上の[illegible]

さあもじ中辻にて逢ひ
果然行ふたる重に令ふ
折ら妙な縁に則もし
難有く多く謝く嬉しく
候はす目に能々を
はなむけおり拝きあるき
イマしく思ひし昔に自ら
め密也に嗚へ同ざる心あき
すみぞるがめ閑氏ま
まず清氏にゃうこゃは
どうやら今けのあ顔とや
す人にみ物んと鋳みじ

どうやら　今けの　あまりとや
ら　人こ　あなんと　なりて
あまり　今けの　人の　様子
知かも　許渇　膳本　風ち
一　部ちを　ちて　百姓　人こ　ハ
ある　ことや　とうし
中山　左一　ハ　百ごと　ちぶん
クラゴ　後　ちよ　おられ　ちて
大湯　堂　ちこ　ハ　生ち　あ生
ま一　ちこ　次ハ　ちよ　百ちて　一
代ち　裸一　ちて　ちよ　仕上
人ちり　やうち　やうち　おち　道

代を禅に要する仕上
人なりと　やうなる　お達
あるとも　暗る気落ぶる人
フィリッスチンでん　田中伝之丞　お貴様に
頼まれ　今日の今
了解致　と言葉
ありと　出でる
ものを　言
ず　但し　仕様ぶる
の人　に　かる人
も　迷惑　を　ぶ
様　の　を　推察
ひ気　に　感

種々の御心を推察いたし
御気分未だ全く快
不被為在御様子案じ
候御静養専要に
拙宅一同無事之気遣
乍御安心被下度候
猶又委細は追而可申上候
御見舞旁早々

十一月十六日

敬具

一郎

年内御祝儀
為御名代
御使者被
下候

敬具

十月十六日

[illegible]

[illegible]上様
御侍衆